

関東地方ESD活動支援センターについて





関東地方ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

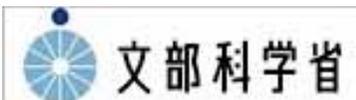
名称：関東地方ESD活動支援センター

略称：関東ESDセンター

英語名：ESD Resource Center of Kanto, Japan

開設日：平成29年7月3日（月）

設置者



【関東ESDセンターの役割】

- ① ESD活動を支援する**情報共有**機能
- ② 現場のニーズを反映した**ESD活動の支援**機能
- ③ ESD活動の**ネットワークの形成**機能
- ④ 人材育成機能



全国 8 か所で展開

地方ESD活動支援センター(地方センター)
 全国センターや地方自治体、地域ESD拠点等との連携のもとに、主に以下の機能を果たすことで、ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。

1. ESD活動を支援する情報共有機能
2. 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
3. ESD活動のネットワーク形成機能
4. 人材育成機能、等



ESD推進ネットワークは

ESDの広がりと深まりを通じて
地域の諸課題の解決と教育の質の向上、
SDGs達成に向けた意識・行動変革を進めます。

持続可能な社会を目指して



持続可能な開発目標(SDGs)

地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)

地域におけるESD活動の支援窓口として、地方センターや他の地域ESD拠点と連携して、ESD活動を支援したり、これからESDを始めようとする活動主体に働きかけます。
地域コミュニティや学校区、市区町村、都道府県、広域ブロックなど様々な活動範囲を持つ組織・団体(教育関係、学術研究関係、メディア、企業、地方自治体、行政、その他)が、地域ESD拠点となり、得意分野を活かした支援やコーディネート、学び合いの場づくりを行います。

ESD推進に取り組む
組織・団体と
協力・連携します。

学校、地域、職場などで
ESDに取り組んでいる多様な実践主体
(ESD活動の現場)

ESDに取り組もうとしている
多様な主体(潜在的な活動主体)

ニーズ・成果共有

ESDを広めるため、深めるための働きかけ・支援

多数・多様・重層的な
地域ESD活動推進拠点
(地域ESD拠点)

ニーズ・成果共有

連携・支援

ESD活動支援センター

地方センター(全国8か所)
+
全国センター

協力団体

地方ESD活動支援センター(地方センター)
全国センターや地方自治体、地域ESD拠点
等との連携のもとに、主に以下の機能を果たすことで、ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たします。

1. ESD活動を支援する情報共有機能
2. 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
3. ESD活動のネットワーク形成機能
4. 人材育成機能、等



Education for ~のための教育 Sustainable ~持続可能な Development ~開発・発展 持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、**人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう**、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における**様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組む**ことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。【ESD国内実施計画より】

全国のESDセンターが

「ESD for 2030学び合いプロジェクト」に取り組んでいます

プロジェクトの目的

気候変動を切り口として各センターが設定したテーマや課題に関心を有する様々な主体が地域を越えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の取り組みを全国に広めていくことを目的とします。

プロジェクトの進め方

1. 全国8カ所の地方ESD活動支援センターが、気候変動を切り口としてそれぞれテーマを設定し、プロジェクトを運営します。
2. テーマ・目的に沿って、メンバー同士の勉強会やESD活動の企画・実践などを行います。
3. 全国フォーラムにおいて結果報告を行い、得られた知見を共有します。

関東ESDセンターでは、

気候変動じぶんごと化プロジェクト

気候変動×地形×防災アプローチの成果と展望

に取り組んでできました

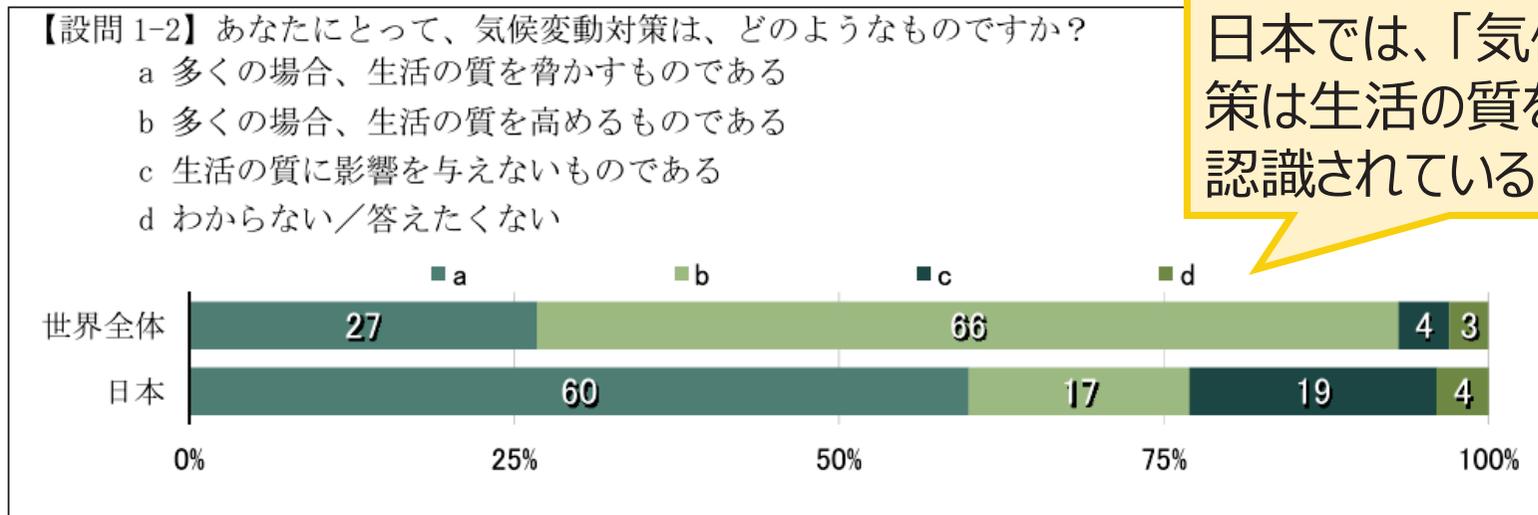
その背景には、

「気候変動」は地球規模課題であり、
「じぶんごと」として捉えにくい

という現状があります

気候変動問題の特性

- 目に見えない温室効果ガス
- 生活感から乖離した時間・空間的スケール
- 因果関係（加害・被害）が見えにくい⇒ 地域・世代間不公平を感じにくい
- 高い目標（重要性）と時間的制約（緊急性）⇔ 個人の無力感・損失回避
- 住民利益不在の再エネ乱開発，グリーン・ウォッシュ
- （これら結果としての）高い負担感・受容度の低さ



出典：ESD推進ネットワーク「ESD・気候変動教育コンセプトペーパー」（<https://esdcenter.jp/wp-content/uploads/2023/03/846e01bb201c280e3474ed32d7ef90f4-1.pdf>）
科学技術振興機構『世界市民会議「気候変動とエネルギー」開催報告書』（https://www.jst.go.jp/sis/scienceinsociety/investigation/items/www-result_20150709.pdf）

気候変動じぶんごと化プロジェクト

気候変動×地形×防災アプローチの成果と展望

現状

- 気候変動が「じぶんごと」としてとらえられていない
- 気候変動に対する行動が起きていない

ギャップ

目標

- 気候変動に対して、自律的に行動ができる人材の育成

取組み

身近なテーマと気候変動を結び付けて学ぶプログラムを開発し、普及する

「気候変動×○○」

- 地域の課題
- 身近な題材
- 別ジャンルの団体

R4年（2022年）、プログラムを開発

流山市東部中学校 生徒さん



異なる教科、レイヤーを統合した「気候変動に適応した実践型防災教育」



原因の理解 (地球規模)

地球規模課題の気候変動を理解する (特に適応策)

講師：国立環境研究所
気候変動適応センター
吉川 副センター長

環境教育

気候変動がもたらす影響を知り、水害リスクが増大する原因について理解する。

気候変動リスクの認識

原因の理解 (地域レベル)

地域固有の具体的な防災上の危険個所と、その理由を理解する

講師：
・流山市博物館 学芸係長
・流山市役所 市民生活部
防災危機管理課

地理教育

温暖だった縄文時代の海岸沿いに残された遺跡、水害ハザードマップから、地域の地形的な特徴を理解する

地域の地形リスクの理解

対症法の理解と実践

災害が起きた際の対応力を身に付ける

講師：
流山防災
まちづくり
プロジェクト



防災教育

災害時に、実際に避難所となる学校の体育館を舞台に、地元自治会と合同で避難所開設訓練を実施

リスク回避、対応力強化



ワーキンググループ

- ✓ 地域の行政、学校や、気候やESDの専門家に参加いただき、プログラムを開発

行政	流山市教育委員会 学校教育部 指導課：指導主事 割貝誠一氏 流山市役所 市民生活部 防災危機管理課：係長 高橋正臣氏、主事 伊波美の里氏
学校	流山市立東部中学校：教務主任 石井勝巳氏
地域	流山防災まちづくりプロジェクト：代表 矢口輝美氏 流山市東部公民館：館長 若松文氏
専門家(気候)	国立環境研究所 気候変動適応センター(CCCA)：副センター長 吉川圭子氏
専門家 (ESD)	都留文科大学 社会学部 特任教授、関東ESDC企画運営委員長：高田研氏 東海大学 スチューデントアチーブメントセンター：准教授 二ノ宮リムさち氏

※肩書は令和4年当時のもの

R5-6年（2023-24年）、プログラムを実施、多様な展開

原因の理解 (地球規模)

地球規模課題の気候変動を理解する

原因の理解 (地域レベル)

地域固有の防災上の危険個所と、その理由を理解する

対症法の理解 と実践

避難所訓練

- ✓ 実際に避難所に指定されている中学校
- ✓ ガールスカウト「地域で防災を考える会」
- ✓ 土浦日本大学中等教育学校

エネルギー

- ✓ 地域に小水力発電が設置されている神奈川県立山北高校
- ✓ 屋上に太陽光発電を設置している千葉県柏市の福祉施設

中学校での避難所訓練



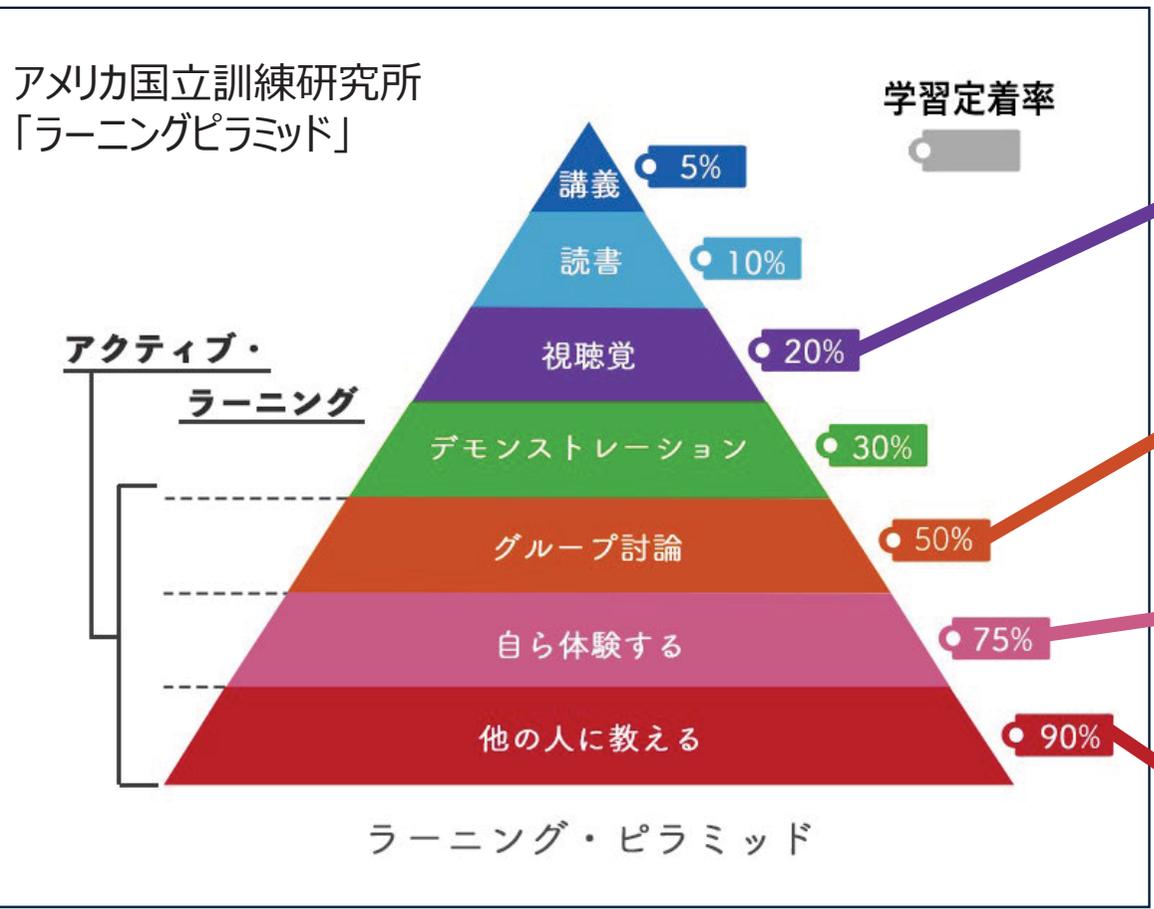
福祉施設屋上の太陽光発電



高校生の
小水力発電設備見学



「気候変動じぶんごと化プロジェクト」学びのポイント



キャリア教育ラボ



気候変動適応センター、博物館研究職、市役所防災部署などの専門家による解説

専門家によるプレゼンテーション



自分と異なる意見がある事を理解する

グループディスカッション



体験

現地見学など体験することで、学習者にインパクトを与える。



発表の機会

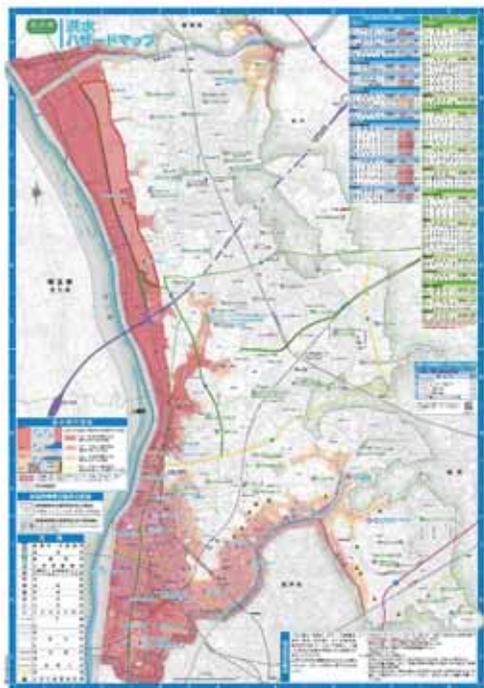
壁新聞の作成、パワーポイントなどで、学んだことをまとめ、発表する

「じぶんごと化」するための工夫

- ✓ 自分の住んでいる土地の成り立ち
- ✓ 気温が現在より1-2℃高く、海面が2-4m高かった縄文時代の海岸線が、現在のハザードマップとほぼ一致するという驚き

興味を持ちやすい

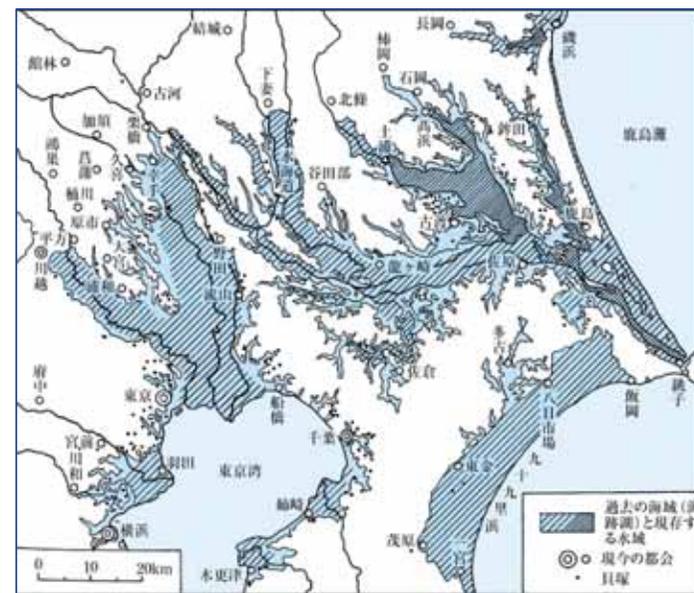
理科、社会などの教科横断的な学び



流山市洪水ハザードマップ



流山市遺跡分布図



縄文時代の海岸線

「気候変動じぶんごと化プロジェクト」 実践報告

流山防災まちづくりプロジェクト 一般社団法人銀座環境会議

矢口 輝美 氏

平野 将人 氏

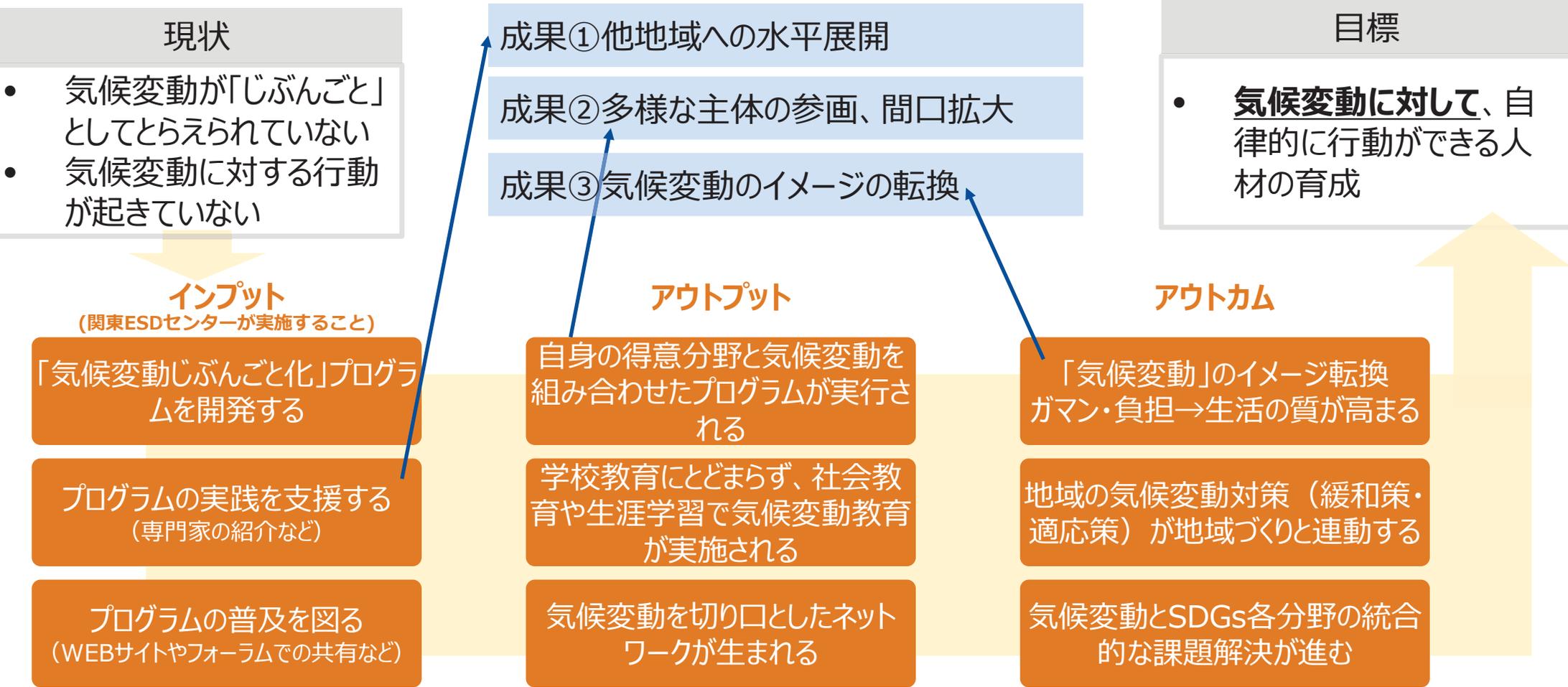
気候変動×防災＋ジェンダー
@千葉県流山市立東部中学校

気候変動×防災＋再エネ×福祉
@千葉県柏市ザザビードゥ（福祉施設）

「気候変動じぶんごと化プロジェクト」 の成果と課題

関東地方ESD活動支援センター

「気候変動じぶんごと化プロジェクト」の成果の過程



成果① <事例> 他地域への水平展開

- 初年度に千葉県流山市東部中学校でプログラムを実施したことが、関係者のネットワークにより他の学校での実施につながった

プログラム開発・実施
@流山市東部中学校

神奈川県川崎市立平間小学校 4年生 (R5年9月)

川崎市地球温暖化防止活動推進センター (KWCCA) が講師として参画

千葉県佐倉市立根郷小学校 6年生 (R6年2月)

流山防災まちづくりプロジェクト、銚子地方気象台、佐倉市教育委員会、佐倉市危機管理部が講師として参画

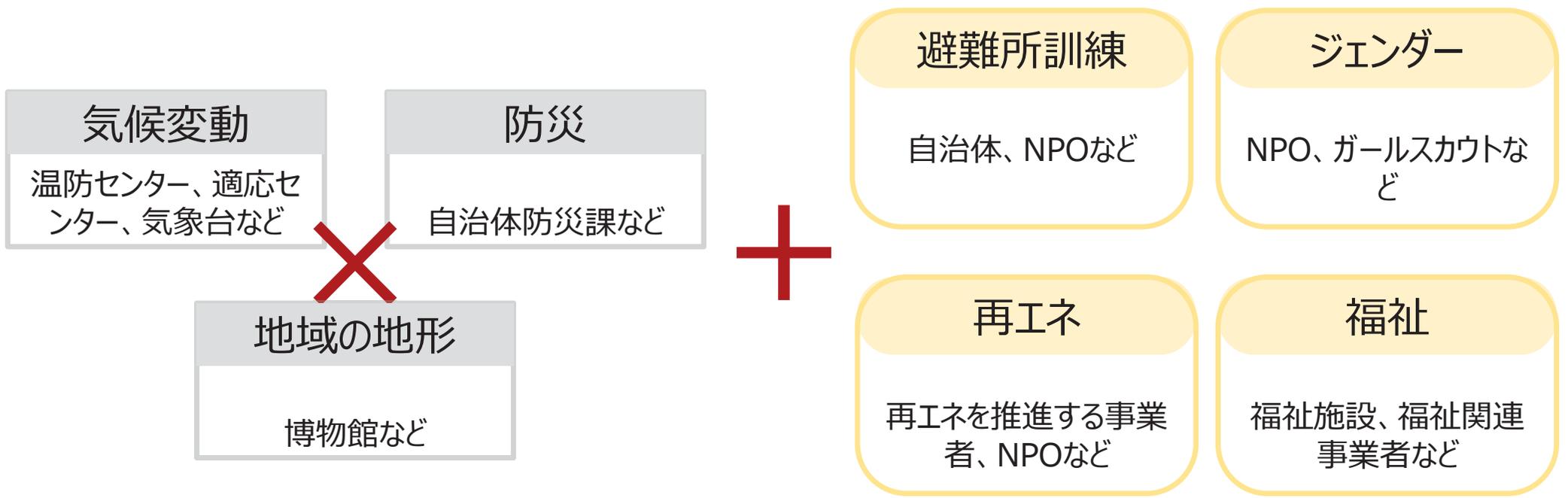
土浦日本大学中等教育学校1学年 (R6年11月)

流山防災まちづくりプロジェクト、国立環境研究所、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、土浦市防災危機管理課が講師として参画。PTAが実施協力、企業の視察も実施

佐倉市教育委員会教職員研修でも気候変動教育を導入 (R6年8月)

成果② <事例> 多様な主体の参画、間口拡大

- 「気候変動×地域×防災」を中心にする事で、身近で切実な地域課題（防災）から、水害の原因の1つに気候変動があることを伝えることが出来る
- それに関連する事象や、対応するアクションは、避難所訓練や再エネ、福祉施設のBCPなど幅広く設定出来るため、多様な主体の参画、異なる分野との連携が可能になる



成果③ <事例> 気候変動のイメージの転換

- インパクトのある体験や、ワークショップを重視することで、無力感や不安になりがちな気候変動を、ポジティブなアクションの発想につなげることが出来る
- 地域の地形という身近な話題を取り入れることで、地域の施策、地域づくりと連動につなげることが出来る

「ポジティブなイメージ」までは言い切れないが、「変化」は確認することが出来る

体験やワークショップ



専門家によるプレゼンテーション



グループディスカッション



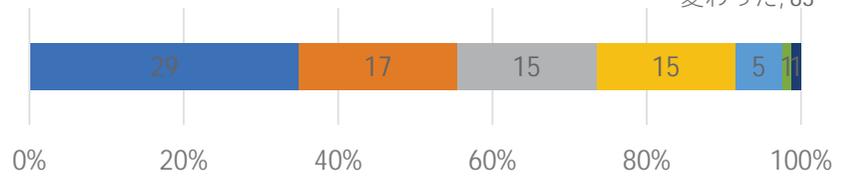
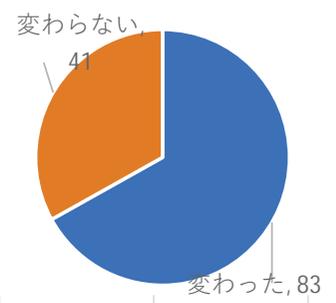
体験



発表の機会

山北高校の生徒へのアンケート

①今日の授業を受ける前と後で、「気候変動」についてのイメージは変わりましたか？
変わった人は、どのように変わりましたか？



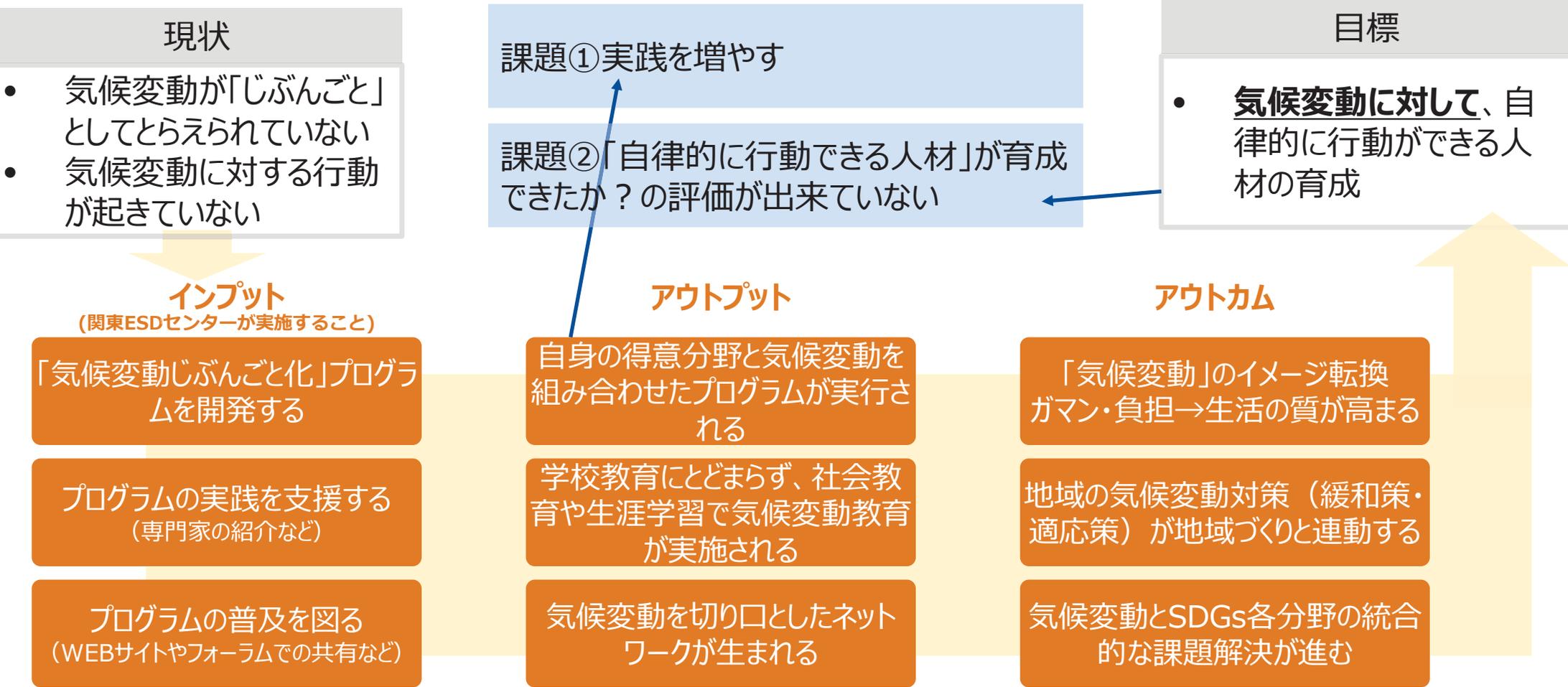
「じぶんごと化」するための工夫

興味を持ちやすい

- ✓ 自分の住んでいる**土地の成り立ち**
- ✓ ハザードマップと、縄文時代の海岸線がほぼ一致するという**驚き**
- ✓ 縄文時代の海岸線近くに、貝塚などの住居跡がある

→理科、社会などの教科横断的な学び

「気候変動じぶんごと化プロジェクト」 今後に向けた課題



課題① 実践を増やすためのヒント集（案）

プログラム

気候変動

防災

地域の地形



あなたの得意分野

なぜ気候変動か？

- SDGs全てのゴールと相互に関わる、重要な課題
- しかし、目に見えない、日々の生活感からは乖離した時間・空間的スケールなどにより「じぶんごと」にならない

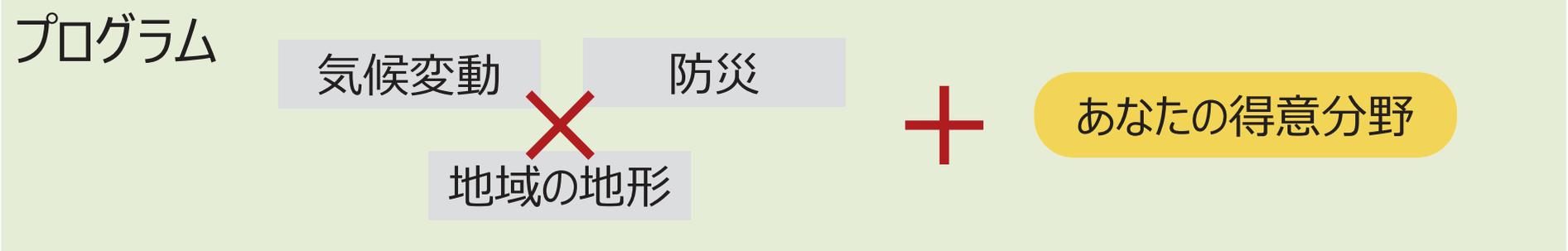
なぜ地形か？

- 水害ハザードマップは、地域の地形と密接
- 自分の住む土地の成り立ち（歴史）は関心を持てる

なぜ防災か？

- 切実な地域課題でじぶんごと化しやすい
- 豪雨の多発化で、水害を身近に感じている
- 水害と気候変動は密接

課題① 実践を増やすためのヒント集（案）



「あなたの得意分野」と気候変動の関係の例

ジェンダー

気候変動による災害に対する防災、ジェンダーに配慮した避難所運営

福祉

福祉施設で事業継続計画（BCP）が義務化されたことの影響としての気候変動、対策

衣料

熱中症対策になる衣料、アパレル業界の課題（廃棄など）と気候変動の関係

スポーツ

気候変動による高温や豪雨がスポーツに与える影響

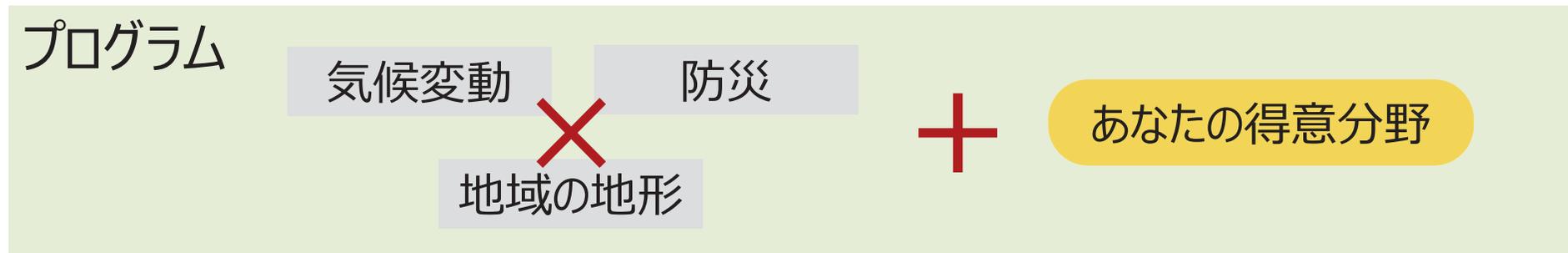
食

気候変動による農作物の育成に与える影響

観光

気候変動による季節の変化が観光に与える影響

課題① 実践を増やすためのヒント集（案）



誰と協力出来そうか？

気候変動

- 地域地球温暖化防止活動推進センター（全国に59センター）
- 地域気候変動適応センター（全国に66センター）
- 地方気象台

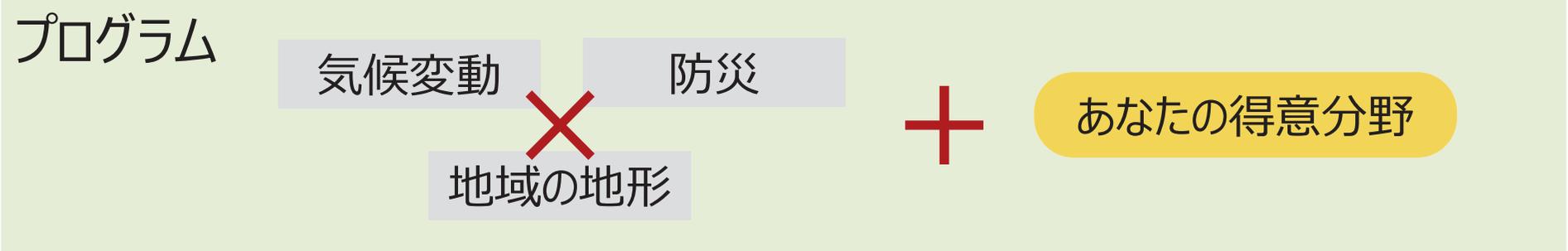
地域の地形

- 地域の博物館
- 環境科学センター

防災

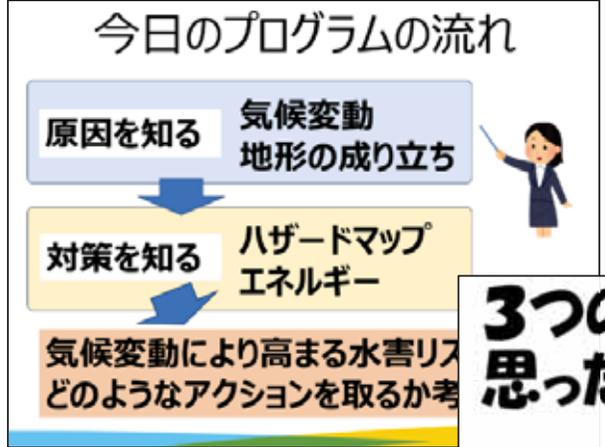
- 自治体の防災課
※地域住民向けの防災講義を行っている場合が多い

課題① 実践を増やすためのヒント集 (案)



プログラムの組み立て/実践例

- 協力者の状況、あなたの得意分野によってプログラムの構成は変わります
 - 関東ESDセンターの実践例を、WEBサイトで公開しています
- <参考>
- 神奈川県立山北高校 気候変動に関するESD授業 (<https://kanto.esdcenter.jp/rep247010/>)
 - 福祉施設における気候変動リスクへの対応 (<https://kanto.esdcenter.jp/rep241027/>)

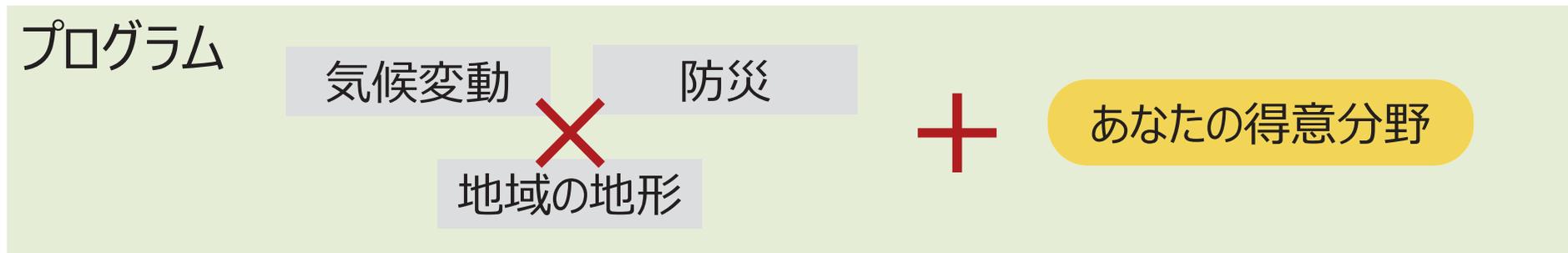


3つの講義を聞いて、思った事...

グループで、感想を共有してください。

- 印象に残ったこと
- 大事だと思ったこと
- 分からなかったこと

課題① 実践を増やすためのヒント集（案）



バリエーションの選択

誰に向けて？
どこで？

- 学校（小、中、高）
- 大学生
- 企業
- 市民（年齢？活動？）

気候変動の強弱

- ガッツリ気候変動を学ぶ
- ライトに伝える
「あなたの得意分野」で気候変動に触れる

誰と協力する？

- 自治体
- 社会教育施設
- 市民団体
- 自治会
- 企業

課題② 「自律的に行動できる人材」が育成できたか？の評価

環境教育の取組に関する指標の検討会（令和6年）



- ① 環境教育プログラム実施での事業評価を目的とした意識・行動変容を測定するツール（指標）を作成
 - 学校、企業、地域（自然学校等）、ESDセンター（学び合いプロジェクト等）どこでも使用可能なシンプルな指標（※環境教育の施策効果という側面）
 - 学び手の意識・行動の変容（成果）を把握することを想定
 - 指標を用いた評価は、事業実施主体で実施することを想定
- ② 我が国としての環境教育・ESD行政の施策としての評価に利用できる指標を作成（※長期的視点や今後の調査研究の必要性も含め検討）

気候変動じぶんごと化プロジェクト

気候変動×地形×防災アプローチの成果と展望

実践事例

流山防災まちづくりプロジェクト
矢口 輝美 氏

一般社団法人銀座環境会議
平野 将人 氏

成果

- ①他地域への水平展開
- ②多様な主体の参画、間口拡大
- ③気候変動のイメージの転換

課題

- ①実践を増やす
- ②「自律的に行動できる人材」が育成できたか？の評価が出来ていない

専門家の視点、実践者の視点も交え
皆さんと一緒に、これからの気候変動教育に向けて考えを深めたい